



# 「読み解く力」育成セミナーを開催しました！



滋賀県では、「読み解く力」を社会で生きていくために必要な力として位置付け、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、「読み解く力」を育む取組を進めています。

令和元年8月8日(木)、ひこね市文化プラザにて「読み解く力」育成セミナーを開催しました。このセミナーは、本県の教育大綱の中でも特に力を入れている「読み解く力」を向上させる実践的な取組を学ぶため開催したもので、高校生、教員等約900人が参加しました。



## 「読み解く力」育成セミナーの様子

RSTの結果を見直し、しっかりと分析したうえで、生徒の傾向を把握し授業改善の方向性を見極めたい。



「読み解く力」が人生を決めるといぐらいに重要な力であるということを他の教員と共有したい。



新聞などを読み、その内容を200字程度で要約するというのを毎日やるべきということがわかりました。



具体的に何をしなくてはいけないのかを重点的に話されていたのでわかりやすかった。



問合せ先 高校教育課 ☎077-528-4575 幼小中教育課 ☎077-528-4662

## 幼児教育



幼児期は「生きる力」の基礎を育てる重要な時期です。



## 遊びは、あきらめない心の土台を築きます！



幼児期は、遊びを通してまわりの環境に関心を持ち、試行錯誤しながら自分の力で、「できた！」と実感することが大切な時期です。

しかし、いつもうまくいくとは限りません。遊びでうまくいかないことや失敗すること、うまくできたことを繰り返すことで、あきらめずに頑張ろうとする心の土台をつくっているのです。

### こんなかわりが、子どもを支えます。

#### ① 親が子どもを信じること

失敗しないように先回りせず、きっと自分の力でできると信じて挑戦させてみましょう。

#### ② がんばったことをほめる

「だめね」「できないの？」などマイナスの言葉がけではなく、努力した姿に目を向けて、「よく頑張ったね」の一言があると「次も頑張ろう」「やるぞ」と思えます。



### 試行錯誤することは、大切です。

たとえ結果がふるわなくても頑張ったときには、達成感や爽快感を感じることができます。

この時期は、縄跳びやお正月遊びに挑戦する子どもの姿を見かけます。「やってみよう」と心を動かし、その子なりのやり方やペースで何度も挑戦して、コツや手応えを感じるようになります。できると何度もやってみて確かめます。そして、自分のものにすると、自信をもって次の課題へと向かうことができるのです。



このような過程を繰り返すことが、失敗にへこたれない、あきらめない心の強さにつながります。お子さんの遊ぶ様子をじっくり見てください。



問合せ先 幼小中教育課 ☎077-528-4662

## 外国人児童生徒等の支援について



本県において、日本語指導が必要な外国人児童生徒等（日本国籍含む）は、年々増加傾向にあり、令和元年5月1日現在、1,367名となりました。

また、県内の公立小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒等の母語別の割合は、ポルトガル語が60%、スペイン語が16%、タガログ語（フィリピン語）が11%、中国語が5%、となり、全体の92%を占めています。その他の言語も多様で、多言語化が進んでいる状況です。

こうした外国人児童生徒等への教育支援については、次の取組を行っています。

- 日本語指導を担当する教員等を配置・派遣しています。
  - ➔外国人児童生徒等の在籍数が多い学校で、学校生活の支援とともに、日本語の指導にあたっています。
- 母語支援員を派遣しています。
  - ➔ポルトガル語、スペイン語・タガログ語・中国語の母語支援員が、学校生活や学習の支援にあたっています。
- 日本語初期指導教室や別室での指導を行っています。
  - ➔来日間もない児童生徒に対して一定期間、日本語指導や適応指導を行い、学校生活に早くに適応できるようにしています。
- ICT機器（自動翻訳機等）の活用を進めています。
  - ➔急な来日時への対応や日常会話のサポートができるよう、自動翻訳機等のICT機器の活用を進めています。

今後、外国人児童生徒等の増加に加え多言語化が進む中、外国人児童生徒等への教育支援は大切な取組となります。

すべての子どもたちが違いを認め合い、共に力を合わせる多文化共生社会を目指し、滋賀の教育を充実させていきます。



日本語指導教室の様子

問合せ先 幼小中教育課 ☎077-528-4665